

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 福岡財務支局長

【提出日】 平成25年11月11日

【四半期会計期間】 第45期第2四半期(自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)

【会社名】 株式会社ナフコ

【英訳名】 NAFCO Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 石田 卓巳

【本店の所在の場所】 福岡県北九州市小倉北区魚町二丁目6番10号

【電話番号】 093 (521) 7030

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 中村 克彦

【最寄りの連絡場所】 福岡県北九州市小倉北区魚町二丁目6番10号

【電話番号】 093 (521) 7030

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 中村 克彦

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第44期 第2四半期累計期間		第45期 第2四半期累計期間		第44期	
	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日
売上高 (百万円)	114,277	114,185	114,185	114,185	224,122	224,122
経常利益 (百万円)	6,525	5,804	5,804	5,804	11,558	11,558
四半期(当期)純利益 (百万円)	3,473	3,136	3,136	3,136	6,825	6,825
持分法を適用した場合の 投資利益 (百万円)						
資本金 (百万円)	3,538	3,538	3,538	3,538	3,538	3,538
発行済株式総数 (株)	29,784,400	29,784,400	29,784,400	29,784,400	29,784,400	29,784,400
純資産額 (百万円)	116,168	121,608	121,608	121,608	119,019	119,019
総資産額 (百万円)	199,915	205,100	205,100	205,100	202,942	202,942
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	116.63	105.29	105.29	105.29	229.17	229.17
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)						
1株当たり配当額 (円)	18	18	18	18	36	36
自己資本比率 (%)	58.1	59.3	59.3	59.3	58.6	58.6
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	5,709	5,192	5,192	5,192	7,946	7,946
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,673	6,427	6,427	6,427	5,738	5,738
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,401	358	358	358	4,677	4,677
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	22,422	19,441	19,441	19,441	20,318	20,318

回次 会計期間	第44期 第2四半期会計期間		第45期 第2四半期会計期間	
	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	43.13	43.13	36.90	36.90

- (注) 1.当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2.売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3.持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がなく該当がないため記載しておりません。
- 4.潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社グループ（当社及び当社の子会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の財政・金融政策等により、円安・株高基調で推移し、公共事業の増加や一部企業の業績の持ち直しなど、景気の回復傾向に期待が広がりました。一方、海外においては中国を始めとする新興国経済の成長率の鈍化など懸念材料も多く、依然として実体経済の先行きは不透明な状況が続いております。

家具・ホームセンター業界におきましても、異業種を含めた企業間競争の激化がさらに継続しており、非常に厳しい経営環境となっております。

このような状況の中で当社は、「お客様満足度100%」の経営理念のもと、お客様志向の徹底とお客様のニーズに合った商品政策の強化をさらに継続してまいりました。

また、経営基盤の充実のため店舗展開にも取り組み、16店舗の新規出店及び4店舗の増床と1店舗の改装をいたしました。これにより当第2四半期会計期間末の店舗数は、29府県にわたり338店舗となりました。しかしながら、4月から5月上旬にかけての天候不順や7月、8月の猛暑により客数が減少しました。

売上高1,141億85百万円（前年同期比0.1%減）、売上総利益384億44百万円（前年同期比3.7%増）、売上総利益率33.7%（前年同期比1.3ポイント増）となりました。

また、販売費及び一般管理費は、新規出店の開設費用等もあり328億9百万円（前年同期比6.8%増）、対売上高比率は28.7%（前年同期比1.8ポイント増）となりました。

この結果、営業利益56億34百万円（前年同期比11.5%減）、経常利益58億4百万円（前年同期比11.0%減）、四半期純利益31億36百万円（前年同期比9.7%減）となり減収減益となりました。

セグメント業績を示すと、次のとおりであります。

「資材・DIY・園芸用品」は、最も売上構成比の高い当社の主力商品であります。比較的天候の影響を受けやすい商品であります。当第2四半期累計期間の売上高は458億96百万円（前年同期比0.4%増）、売上総利益は159億37百万円（前年同期比3.0%増）、売上総利益率は34.7%となっております。

「生活用品」は、天候や競合他社との企業間競争が大きく影響している商品であります。当第2四半期累計期間の売上高は328億3百万円（前年同期比0.1%減）、売上総利益は91億7百万円（前年同期比6.8%増）、売上総利益率は27.8%となっております。

「家具・ホームファッション用品」は、当社の差別化された商品であります。他の商品と同様に天候不順や競合他社との企業間競争の影響を受けております。当第2四半期累計期間の売上高は255億48

百万円（前年同期比0.0%増）、売上総利益は104億3百万円（前年同期比2.5%増）、売上総利益率は40.7%となっております。

「その他」は、カー用品、乗り物、ペット用品、灯油他が含まれておりますが、異業種を含め、企業間競争の影響を大きく受けております。当第2四半期累計期間の売上高は99億36百万円（前年同期比2.6%減）、売上総利益は29億96百万円（前年同期比1.9%増）、売上総利益率は30.2%となっております。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期会計期間末の資産合計は、2,051億0百万円となり、前事業年度末と比較して21億57百万円の増加となりました。

（流動資産）

当第2四半期会計期間末における流動資産の残高は、851億84百万円（前事業年度末比9億9百万円減）となりました。減少の主な要因は、商品の増加（前事業年度末比2億93百万円増）などがあつたものの、現金及び預金の減少（前事業年度末比8億22百万円減）や売掛金の減少（前事業年度末比4億5百万円減）などによるものであります。

（固定資産）

当第2四半期会計期間末における固定資産の残高は、1,199億15百万円（前事業年度末比30億67百万円増）となりました。増加の主な要因は、有形固定資産の増加（前事業年度末比30億23百万円増）などによるものであります。

（流動負債）

当第2四半期会計期間末における流動負債の残高は、715億10百万円（前事業年度末比22億51百万円減）となりました。減少の主な要因は、支払手形及び買掛金の減少（前事業年度末比9億94百万円減）や設備関係支払手形の減少（前事業年度末比16億51百万円減）などによるものであります。

（固定負債）

当第2四半期会計期間末における固定負債の残高は、119億81百万円（前事業年度末比18億19百万円増）となりました。増加の主な要因は、長期借入金の増加（前事業年度末比13億90百万円増）などによるものであります。

（純資産）

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は、1,216億8百万円（前事業年度末比25億89百万円増）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、194億41百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、51億92百万円（前年同期比で5億16百万円の減少）となりました。この主な要因は、税引前四半期純利益56億91百万円及び減価償却費28億82百万円などに対し、法人税等の支払額23億11百万円及び仕入債務の減少額9億94百万円などによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、64億27百万円（前年同期比で27億54百万円の支出増）となりました。この主な要因は、新規出店に伴う有形固定資産の取得による支出63億84百万円などによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果増加した資金は、3億58百万円(前年同期比で27億59百万円の収入増)となりました。この要因は、長期借入れによる収入28億円に対し、長期借入金返済による支出11億25百万円、リース債務による返済7億80百万円及び配当金の支払額5億36百万円によるものであります。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社を取り巻く事業環境は非常に厳しい状況が続いております。ホームセンター業界におきましては、大手企業によるナショナルチェーン化(全国展開)と店舗の大型化による地域間競争の激化、さらには他業界(ドラッグストア、ディスカウントストア、大型量販店、家電専門店等)との品揃えや価格における業態間競争が激しさを増しております。

当社といたしましては、これらの状況を踏まえ、競争力強化、商品構成の充実と付加価値の高い商品の開発、顧客ニーズに合わせた商品の提供等、競合店とのさらなる差別化が不可欠になるとの認識のもと、商品政策におきましては、当社オリジナル商品である「良品得価」のさらなる値入改善や品質の向上に取り組んでまいります。また、利益率の高い輸入品についてもさらに拡大していく計画であります。「資材・DIY・園芸用品」「生活用品」「家具・ホームファッション用品」を3本柱と考え一般消費者の方からプロ業者の方まで幅広い顧客層のニーズに対応できる商品を、地域一番の品揃え・価格・品質で提供できるよう取り組んでまいります。また、積極的な店舗展開を実施しながら、大商圏では家具・ホームファッション、インテリアをコーディネートした「ツーワン・スタイル」とホームセンターを併設した併合店を、中商圏では1,000~1,500坪型のホームセンターを、小商圏では300坪型の小型ホームセンターの出店を継続し、店舗の差別化戦略に取り組んでまいります。

(5) 経営者の問題意識と今後の方針について

「お客様満足度100%」を目指した経営は、お客様の声を背景とした商品開発に、作業システムの改善に、顧客サービスの向上にと反映させ、全社一丸となった経営努力を続けてまいりました。そして、より快適な生活を創造する「暮らしのクリエイター」としてさらに進化してまいります。具体的な今後の商品戦略といたしましては、「資材・DIY・園芸用品」「生活用品」「家具・ホームファッション用品」の3本柱をさらに強化するとともに、お客様のニーズを把握し、他社にない独自の商品開発に取り組み、マス化(大量仕入)による有利な仕入ができるように、商品開発と調達力の強化に努めてまいります。在庫コントロールの向上、POSデータをはじめとした情報システムのさらなる活用も継続して取り組んでまいります。店舗戦略といたしましては、増床、改装による既存店の活性化をはかりながら、300坪から3,000坪型までの小商圏、中商圏、大商圏と地域に適した店舗展開を行ってまいります。地域戦略といたしましては、九州、中国、関西地区はさらにドミナント化をはかりながら、中部、関東地区等の他地域へも商勢圏を拡げてまいります。

なお、当社は、投下資本に対する利益率をみる総資本経常利益率を経営指標にしており、中期的に10.0%以上を目標としております。また、資本の効率性を高めることで、株主資本利益率の向上にも努めてまいります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	101,504,000
計	101,504,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年11月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	29,784,400	29,784,400	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	29,784,400	29,784,400		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日		29,784,400		3,538		4,223

(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
深町 勝義	福岡県北九州市小倉北区	6,066	20.37
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (常任代理人株式会社三菱東京UFJ銀行)	US 82 DEVONSHIRE ST BOSTON MASSACHUSETTS 02109360582 (東京都千代田区丸の内2丁目7-1決済事業部)	2,275	7.64
株式会社深勝興産	福岡県北九州市小倉北区足立3-10-24	1,692	5.68
高野 喜代子	山口県下関市	1,486	4.99
高野 将光	山口県下関市	1,485	4.99
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	1,463	4.91
高野 裕子	山口県下関市	1,359	4.56
深町 宏子	福岡県北九州市小倉北区	893	3.00
石田 佳子	福岡県北九州市小倉北区	893	3.00
永野 共世	福岡県北九州市小倉北区	893	3.00
計		18,508	62.14

(注) シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社から平成25年9月17日付で株券等の大量保有の状況に関する変更報告書の提出があり、平成25年9月13日現在で当社株式を以下のとおり保有している旨の報告を受けております。また、フィデリティ投信株式会社から平成25年6月20日付で株券等の大量保有の状況に関する変更報告書の提出があり、平成25年6月14日現在で当社株式を以下のとおり保有している旨の報告を受けております。しかしながら、当社として当第2四半期会計期間末における実質所有株式数が確認できませんので、上記大株主の状況に含めておりません。なお、その変更報告書の内容は次のとおりであります。

変更報告書(シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社)

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社	東京都千代田区丸の内1-8-3	1,202	4.04
シュローダー・インベストメント・マネージメント(ホンコン)リミテッド	香港 クイーンズウェイ 88、ツォー・パシフィック・プレイス 33階	34	0.12
シュローダー・インベストメント・マネージメント・ノースアメリカ・リミテッド	英国 EC2V 7QA ロンドン、グresham・ストリート31	145	0.49
シュローダー・インベストメント・マネージメント・リミテッド	英国 EC2V 7QA ロンドン、グresham・ストリート31	983	3.30
計		2,365	7.94

変更報告書(フィデリティ投信株式会社)

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
エフエムアール エルエルシー(FMR LLC)	米国 02210 マサチューセッツ州ボストン、サマー・ストリート245	2,855	9.59
計		2,855	9.59

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 200		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 29,781,500	297,815	同上
単元未満株式	普通株式 2,700		同上
発行済株式総数	29,784,400		
総株主の議決権		297,815	

(注) 単元未満株式には当社所有の自己株式 57株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社ナフコ	福岡県北九州市小倉北区 魚町二丁目6番10号	200		200	0.00
計		200		200	0.00

2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 新任役員

該当事項はありません。

(2) 退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
常務取締役	人事部長	近藤 和夫	平成25年9月20日

(3) 役職の異動

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

資産基準	0.8%
売上高基準	0.2%
利益基準	0.3%
利益剰余金基準	0.8%

会社間項目の消去後の数値により算出しております。

1【四半期財務諸表】
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,207	22,385
売掛金	2,101	1,695
商品	57,882	58,176
その他	2,905	2,927
貸倒引当金	3	0
流動資産合計	86,094	85,184
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	57,635	59,115
土地	41,304	42,675
建設仮勘定	755	867
その他(純額)	4,061	4,123
有形固定資産合計	103,757	106,781
無形固定資産	2,111	2,278
投資その他の資産	¹ 10,978	¹ 10,856
固定資産合計	116,848	119,915
資産合計	202,942	205,100
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	² 30,508	² 29,514
短期借入金	22,630	22,630
1年内返済予定の長期借入金	1,622	1,906
未払法人税等	2,454	2,697
未払金	3,824	4,068
設備関係支払手形	² 7,146	² 5,495
賞与引当金	1,093	1,148
役員賞与引当金	32	-
ポイント引当金	833	929
資産除去債務	74	3
その他	3,540	3,117
流動負債合計	73,761	71,510
固定負債		
長期借入金	1,227	2,617
退職給付引当金	2,272	2,287
役員退職慰労引当金	1,421	1,401
資産除去債務	2,894	3,148
その他	2,346	2,526
固定負債合計	10,161	11,981

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成25年9月30日)
負債合計	83,922	83,491
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,538	3,538
資本剰余金	4,223	4,223
利益剰余金	111,212	113,812
自己株式	0	0
株主資本合計	118,973	121,573
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	46	35
評価・換算差額等合計	46	35
純資産合計	119,019	121,608
負債純資産合計	202,942	205,100

(2)【四半期損益計算書】
【第2四半期累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	114,277	114,185
売上原価	77,197	75,741
売上総利益	37,080	38,444
販売費及び一般管理費	30,709	32,809
営業利益	6,370	5,634
営業外収益		
受取利息	16	15
受取配当金	4	5
受取手数料	111	109
受取家賃	120	115
その他	101	106
営業外収益合計	354	351
営業外費用		
支払利息	119	100
不動産賃貸原価	64	58
その他	16	23
営業外費用合計	200	182
経常利益	6,525	5,804
特別利益		
固定資産売却益	-	0
地役権設定益	18	-
資産除去債務戻入額	-	14
特別利益合計	18	14
特別損失		
投資有価証券評価損	9	0
固定資産除却損	19	10
固定資産売却損	0	0
減損損失	232	116
特別損失合計	261	127
税引前四半期純利益	6,282	5,691
法人税等	2,808	2,555
四半期純利益	3,473	3,136

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	6,282	5,691
減価償却費	2,674	2,882
減損損失	232	116
無形固定資産償却費	39	58
長期前払費用償却額	37	39
有形固定資産除却損	19	10
有形固定資産売却損益(は益)	0	0
投資有価証券評価損益(は益)	9	0
地役権設定益	18	-
資産除去債務戻入額	-	14
貸倒引当金の増減額(は減少)	2	3
退職給付引当金の増減額(は減少)	162	14
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	21	19
賞与引当金の増減額(は減少)	89	54
役員賞与引当金の増減額(は減少)	36	32
ポイント引当金の増減額(は減少)	57	95
受取利息及び受取配当金	20	20
支払利息	119	100
売上債権の増減額(は増加)	94	71
たな卸資産の増減額(は増加)	450	293
仕入債務の増減額(は減少)	638	994
未払消費税等の増減額(は減少)	126	105
その他の資産の増減額(は増加)	19	26
その他の負債の増減額(は減少)	393	265
小計	8,701	7,577
利息及び配当金の受取額	19	18
利息の支払額	133	91
地役権設定の受取額	18	-
法人税等の支払額	2,896	2,311
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,709	5,192

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	3,323	6,384
有形固定資産の売却による収入	0	0
無形固定資産の取得による支出	160	45
固定資産の除却による支出	19	6
資産除去債務の履行による支出	2	-
敷金及び保証金の差入による支出	193	129
敷金及び保証金の回収による収入	31	156
投資その他の資産の増減額（は増加）	7	18
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,673	6,427
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	-	2,800
長期借入金の返済による支出	1,243	1,125
リース債務の返済による支出	636	780
配当金の支払額	521	536
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,401	358
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	365	876
現金及び現金同等物の期首残高	22,788	20,318
現金及び現金同等物の四半期末残高	22,422	19,441

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第2四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
税金費用の計算	税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期貸借対照表関係)

前事業年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成25年9月30日)
1 投資その他の資産は、貸倒引当金14百万円を控除して表示しております。	1 投資その他の資産は、貸倒引当金21百万円を控除して表示しております。

2 四半期会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、前事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の事業年度末日満期手形が、事業年度末残高から除かれております。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成25年9月30日)
支払手形	7,543百万円	
設備関係支払手形	781百万円	

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
広告宣伝費	2,712百万円	2,812百万円
ポイント引当金繰入額	57百万円	95百万円
役員報酬	108百万円	106百万円
給与	9,281百万円	9,684百万円
賞与引当金繰入額	1,120百万円	1,148百万円
地代家賃	4,417百万円	4,620百万円
減価償却費	2,743百万円	2,969百万円
水道光熱費	1,821百万円	2,181百万円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に記載されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金	25,365百万円	22,385百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	2,943百万円	2,943百万円
現金及び現金同等物	22,422百万円	19,441百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	521	17.50	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月9日 取締役会	普通株式	536	18.00	平成24年9月30日	平成24年12月7日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前事業年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第2四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	536	18.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月8日 取締役会	普通株式	536	18.00	平成25年9月30日	平成25年12月6日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前事業年度末日と比較して著しい変動がありません。

(持分法損益等)

当社は関連会社がないため、該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	四半期損 益計算書 計上額 (注)2
	資材・DIY ・園芸用品	生活用品	家具・ホーム ファッション 用品	計			
売上高							
外部顧客への売上 高	45,702	32,835	25,537	104,075	10,201	114,277	114,277
セグメント間の内 部売上高又は振替 高							
計	45,702	32,835	25,537	104,075	10,201	114,277	114,277
セグメント利益	15,467	8,524	10,146	34,138	2,942	37,080	37,080

(注)1. 「その他」は報告セグメントに含まれない商品区分セグメントであり、内容につきましては、「カー用品、
乗り物、ペット用品、灯油他」であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の売上総利益と一致しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主
な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	34,138
「その他」の区分の利益	2,942
販売費及び一般管理費	30,709
四半期損益計算書の営業利益	6,370

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

減損損失について、報告セグメントへの配分を行っていないため記載を省略しております。

当第2四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	四半期損 益計算書 計上額 (注)2
	資材・DIY ・園芸用品	生活用品	家具・ホーム ファッション 用品	計			
売上高							
外部顧客への売上 高	45,896	32,803	25,548	104,248	9,936	114,185	114,185
セグメント間の内 部売上高又は振替 高							
計	45,896	32,803	25,548	104,248	9,936	114,185	114,185
セグメント利益	15,937	9,107	10,403	35,447	2,996	38,444	38,444

(注)1. 「その他」は報告セグメントに含まれない商品区分セグメントであり、内容につきましては、「カー用品、
乗り物、ペット用品、灯油他」であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の売上総利益と一致しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主
な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	35,447
「その他」の区分の利益	2,996
販売費及び一般管理費	32,809
四半期損益計算書の営業利益	5,634

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

減損損失について、報告セグメントへの配分を行っていないため記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	116円63銭	105円29銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	3,473	3,136
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	3,473	3,136
普通株式の期中平均株式数(千株)	29,784	29,784

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

第45期(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)中間配当については、平成25年11月8日開催の取締役会において、平成25年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	536百万円
1株当たりの金額	18円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成25年12月6日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月11日

株式会社ナフコ
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 堺 昌 義 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 川 口 輝 朗 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ナフコの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第45期事業年度の第2四半期会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ナフコの平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。